

キリスト教二千年の歴史的遺産と
叡智の集大成

新カトリック大事典



第一線の研究者約1,400名が
すべて記名で書きおろした
日本最大規模のキリスト教関係事典

カトリックの教義や歴史だけでなく、哲学・美術・音楽・思想など人類の知の全般を網羅した、1万5,000以上の項目数を誇る大事典。キリスト教カトリックという宗教の窓から、世界の文化を立体的に理解することができます。



書籍刊行時にバチカンにて。当時の教皇ヨハネ・パウロ二世へ献呈した際の一枚。

充実の目次リンク、全文検索機能、
年1回の更新で
さらに活用しやすい大事典に！

充実した目次リンクで、相互参照も自由自在。さらに、ジャパンナレッジ版では全文検索が可能となりました。内容も年1回のペースで更新予定。「新カトリック大事典」はジャパンナレッジとともに進化し続けます。



「主要概説項目案内」では、特定のテーマについて調べる際に必要な項目リンクがまとまっています。

学校・研究機関でのご利用

ジャパンナレッジLib

<https://japanknowledge.com/library/>



個人でのご利用

ジャパンナレッジPersonal

<https://japanknowledge.com/personal/>



開発・運営 **NetAdvance**

株式会社ネットアドバンス(小学館グループ)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-13 神保町さくら通りビル4F

E-mail b2b@japanknowledge.com

※社屋移転に伴い、2026年11月より上記の住所に変わります。



紀伊國屋書店
BOOKS KINOKUNIYA

販売総代理店

株式会社 紀伊國屋書店 デジタル情報営業部

〒153-8504 東京都目黒区下目黒3-7-10

E-mail online@kinokuniya.co.jp



写真左から石井編集室代表、サリ理事長、佐久間管区長。

ジャパンナレッジ搭載記念インタビュー

ジャパンナレッジLib／Personalのコンテンツに、
『新カトリック大事典』（編集：上智学院、出版：研究社）が搭載されたことを記念して、
アガスティン・サリ上智学院理事長、佐久間勤イエズス会日本管区長、石井祥裕『新カトリック大事典』編集室代表の
3名に、同大事典の「これまで」と「これから」を伺いました。

こちらはジャパンナレッジHPIにて連載中の「ニッポン書物遺産」のインタビューを抜粋し、再構成したものです。本編は右下のURLよりご覧いただけます。

32年もの歳月をかけて完成

—— 編集の経緯を教えてください。

石井 「新」とあることからおわかりのように、前身の辞典が存在します。1940年に刊行が開始された『カトリック大辞典』（全5巻）です。これほどの大辞典が戦前に企画・編集されたのは驚異的なことでした。1960年に完結したのですが、その後すぐ、世界のカトリック教会では大きな出来事がありました。

サリ 62年から65年にかけて開催された「第2バチカン公会議」ですね。教会の刷新、全キリスト教徒一致の促進、現代世界との対話を目指すことが決まりました。

石井 このカトリックの変革を受けて、同辞典も再編集されることになりました。世界の文化や宗教や歴史全般を扱う百科事典的性格を持った、『新カトリック大事典』です。77年に上智大学創立70周年（83年）の記念企画として立ち上がり、79年に編集委員会が発足しました。第1巻の刊行は96年ですから、足かけ18年もかかっています。最終巻である第4巻が刊行されたのは、さらに13年経った2009年のことです。上智大学をはじめ、日本の神学者を総動員して最高のものを作ろうとしたために、随分時間がかかってしまいました。

『新カトリック大事典』は「学際インフラ」

—— 2026年春から『新カトリック大事典』がジャパンナレッジに搭載されました。

サリ 私は、水道や電気と同様に「学際インフラ」が大事だと思っています。学際インフラとは、広く知見を一般社会に還元し、次代の研究や学習をよりよくするための学術参照基盤のこと。ジャパンナレッジはインターネット上の知のプラットフォームです。ここに搭載されたことで、より『新カトリック大事典』のインフラ化が進みますし、何よりこれまでカトリックに関心をお持ちでな

かった方の目に触れる機会が増えます。

例えば、今、世の中で起きている紛争の多くの背景に、宗教的対立がありますが、『新カトリック大事典』で調べることは、相互理解の大きな助けになるでしょう。

佐久間 『新カトリック大事典』の特徴は、日本のキリシタンについての記述が豊富なことです。ザビエルに始まるキリスト教伝来の歴史を、一般の方が概観できる資料がなかなかないのですが、『新カトリック大事典』はその歴史理解の一助になります。

さまざまな宗教や人を繋ぐ存在に

—— 現代社会における『新カトリック大事典』の意義とは何でしょうか。

佐久間 11世紀に活躍したアンセルムスという神学者が、信仰というものは知的な理解を要求すると言っています。信じていることを可能な限り合理的に理解して、言葉で表現することが大事だということです。『新カトリック大事典』には、カトリックがどう変わってきたかという変革の歴史も記述されています。自分たちの宗教を絶対視するのではなく、歴史的、合理的に判断してきたのがカトリックです。こうした「現在を絶対化しない」という視座は、現代社会でも有効ではないでしょうか。

サリ 第2バチカン公会議の一つの大きなポイントは、他宗教との対話を進めるということでした。それには他宗教のことを知る必要がありますし、自分たちカトリックのことを知ってもらう必要もあります。『新カトリック大事典』はさまざまな宗教や人を繋ぐ存在になり得ます。ですから、たくさんの人に使っていただきたいですね。



← インタビュー本編はこちらから

<https://japanknowledge.com/articles/blogheritage/ncel/>